

イーソーコ 遠藤 文 代表取締役

新春*
interview



イーソーコグループの「ス」の足元を着実に固め、2018年のトピックスとしていくことができた。は

☆大型先進物流施設の
新規大量供給が続く中、
空室が出たワインテーシ
は

る大谷蔵一の倉庫への多様なリノベーションニーズが発生し、さまざま業種のお客様から多数の引き合いをいただいた。倉庫からのリノベーションも依然好調だが、大学キャンパスや倉庫施設内の整備工事も初めて手がけるなど、勢いに拍車がかかった。人材採用面の動きは「著作賞」をいただき、不動産業界にも横串を通すきっかけが作れた。これにより、協業する不動産企業も増加した。倉庫リノベーション事業 また、イーソーコが年2回催すインターンシップでは、約30人の大学生が集まった。フランスからの留学生も長期インターン

人財採用を強化し 新卒採用を倍増へ

魅力ある物流業界を目指す

今年、人財育成の成果は

今年、人財育成の成果は、強化された新卒採用の成果は

☆2018年には5人の大卒社員を採用した。約1年間、わたりに、イーソーコ独自のカリキュラムで研修中だが、今年4月入社予定の新卒社員10人の教育担当を務める。イーソーコでは20年卒採用を20人、21年卒は40人と、売上拡大とともに採用を増やしていく。双方の成長を目指す

中、前年度入社組が翌年入社社員を育成するスタイルは今後も継続していく。

ITツールの導入に関して

☆マニュアル作成プログラム「e-teach」を新人研修に応用した。

スマートフォンの動画機能を活用し、新入社員たちがビジネススマナークラ、庫内作業、物流不動産ビジネスのオペレーションまで、社内マニュアルを作成している。

e-teachは業務標準化が実現するだけでなく、次年度の新入社員との情報共有が可能となる。

新入社員が次年度の研修担当となるのは、e-teachを活用したことが大きい。双方の成長を目指す

長につながらず、
新年の抱負を
☆5Gによる高速通信を視野にITツールを活用、各業務の標準化、平準化、共有化を図り、30分間単位で仕事の成果を出せる体制構築を目指す。これにより社員が長期休暇でリフレッシュできる環境をつくりたい。

また、物流不動産ビジネスの実行部隊「物流ユニティ」の育成事業を加速する。ジョブローテーションの一環で、合弁会社に派遣する「留学」を強化させ、スキルアップと留学先の業務支援に注力する。

新3K「稼げる・カッコイイ・感動する」で、魅力ある物流業界を目指し、一致団結して変革していきたい。